

# 栄養教諭から見た学校の食育とその実施体制の評価

安嶋 まなみ<sup>1</sup> 山下 良平<sup>2</sup> 住本 雅洋<sup>3</sup>

## 要 旨

石川県内の公立小学校及び公立中学校に所属する栄養教諭9人を対象とし、学校での食育の中核を担う栄養教諭から見た学校の食育の実態をインタビュー調査し、家庭の補完としての機能の状況を明らかにした。学校での食育の家庭への補完としての機能は、学校給食の準備から食事、後片付けまでの一連の活動を経験する中で、また、家庭へ向けての便りやホームページの食育配信、食育行事を通して、共通性のある食事の摂り方やマナーなどの食習慣を理解し身につけることが中心となっていた。今後更に子どもの食育を拡充するには、人員や体制の見直しを踏まえた学校の食育推進が必要であると考えられた。

キーワード：食育、栄養教諭、学校、食育体制

## 1. はじめに

1954年制定の「学校給食法」は、2008年に改定され、学校給食の目標が食育の観点から見直された。給食の時間における指導は標準授業時数に含まれないものの、教育課程上の学級活動と関連付けて行うことのできる重要な学校教育活動となっている。

また、学校給食を実施する学校から家庭の保護者に向けては、給食だよりを配付し、学校給食試食会を開催するなど、食育発信をし、家庭で子どもの食育の理解を深める取り組み等が行われている。このように、学校給食には、家庭への食育の補完が期待されている。

また、2005年から食に関する指導（学校における食育）の推進に中核的な役割を担う「栄養教諭」の制度が創設された。栄養教諭の職務には、「食に関する指導」と「学校給食の管理」があり、両方を一体のものとして行うことにより、教育面において相乗効果が期待されている（文部科学省、2005）。

これまでの学校の食育と食育体制についての研究は、その評価に関するもの（赤松ら、2015a, 2015b）や幼児への食育の実態を調査した研究（赤澤ら、2004）、栄養教諭と家庭科教諭との連携の調査（小林ら、2010；大竹ら、2014）、食育指導項目ごとの時間の調査（本田ら、2013）はある。しかし、栄養教諭に対してインタビュー調査により、学校の食育による家庭の食育の補完について実態を調査したものはないとみられる。

そこで本稿では、学校での食育の中核を担う栄養教諭に対してインタビュー調査を行うことにより、学校の食育の実態と、学校の食育の家庭への補完としての機能の状況を明らかにする。

## 2. 方法

### (1) 調査協力者

石川県内A市（単独調理方式）・B市（共同調理場方式）の公立小学校及び公立中学校に所属する、2005年以降に2校～7校の異動を経験している30歳代～50歳代までの栄養教諭9人を対象とした<sup>1)</sup>。

### (2) 調査方法

2022年8月、調査対象者が在籍する小学校・中学校・給食センターで、1人1回60分程度の半構造化インタビュー調査を行った。個人情報の保護や研究協力の任意性等は書面で説明を行い、同意を得た。インタビューでは、設定した質問項目と食育の課題等について自由に話してもらい記録をした。調査対象の栄養教諭は所属校以外の担当校（以下、担当校）があるため、項目により所属校と担当校の両方の内容を尋ねた。正確を期するため対象者の了解を得て録音をした。

なお、本研究は石川県立大学人権・倫理委員会研究倫理部会の承認を得ている（承認番号2022-4）。

### (3) 調査項目

インタビュー調査の項目は、①子どもへの働きかけ、②家庭への働きかけ、③学校での食育体制、④ノウハウの継承や継続性の4つに分類し、具体的には次の通り設定した。

<sup>1</sup> 金沢学院短期大学 食物栄養学科 准教授

<sup>2</sup> 石川県立大学 生物資源環境学部 環境科学科

<sup>3</sup> 石川県立大学 生物資源環境学部 生産科学科

責任著者：山下 良平 (r-yama@ishikawa-pu.ac.jp)

- ① 学校から子どもへの働きかけは、学校での食育内容（所属校及び担当校）とし、実際の子どもの食育内容を知り、食習慣形成との関連を検討した。
- ② 学校から家庭への働きかけは、家庭へ発信する食育媒体（所属校及び担当校）、家庭へ発信する内容（所属校及び担当校）、家庭への食育支援（所属校及び担当校）とし、家庭への食育発信状況を知ること、家庭の食育との関連を検討した。
- ③ 学校での食育体制は、食育の計画・実施・評価と担当者（所属校及び担当校）、栄養教諭の食育への意向の採用状況（所属校及び担当校）、管理職の食育への意向の採用状況（所属校及び担当校）を確認し、学校での食育体制整備状況と子どもの食習慣形成への関連を探った。
- ④ 栄養教諭が学校で実施する食育のノウハウの継承や継続性は、食育スキル育成の仕組み、学校固有の食育引継ぎの仕組み、栄養教諭の知識・経験の継承、食育の情報共有の場、小学校・中学校での食育の違いについて調査し、学校の食育の均質性や共通性について確認した。

### 3. 結果

インタビュー調査結果は表1にまとめた。以下では調査結果について記述する<sup>2)</sup>。

#### (1) ①学校での食育内容

全体の傾向として、学校での食育内容（所属校及び担当校）は、全体計画や年間計画に応じた指導が基本となるが、給食指導に関しては、食育目標が毎月設定され、その目標に沿った指導が学級毎に行われていた。栄養教諭から学級担任へ毎月の食育目標に沿った指導案や指導資料が配布され、なるべく均質な食育指導が行われるよう配慮されていた。給食時間に実施する給食指導は、給食の準備から後片付けまでを子どもたちが当番制で行い、手洗い・身支度・運搬・配膳など安全や衛生、環境への配慮を理解しながら習慣化を図っていた。特記することとして、会食については、食事への理解やマナーを守り楽しく会食することが意識されていた（E, H, I）。給食時間には児童を中心とした食育の放送（C, D, G）や、給食で使われる食品の3群分類での献立紹介が行われ（C）、食事内容に関しては、地域の特色を生かした給食（C, D, F, H, I）や、お話給食（C, F）、旅する給食（C, F）、行事食（C, E, F, H, I）などが実施されている<sup>3)</sup>。その他、家庭科や道徳、総合的な学習の時間などの教科と連携した食育授業が行われ（A, C, D, E, F, G, H, I）、全校集会や児童委員会活動

（C, F）、掲示、たより等を活用した食育（C, D）が行われていた。栄養教諭が主体となって行われる教職員への食育の校内研修を実施している学校も見受けられた（A）。肥満度の高い児童に対するものなど、個別指指導（個に応じた指導）は、栄養教諭が直接指導に当たる場合や、学級担任と連携し行う場合もあった。（E, F, H, I）。課題として、近年のコロナ禍の影響で学校給食も黙食が実施され栄養教諭による対面の食育指導も難しくなっていることがあげられた（A, C, E, H）。学校の給食指導・食育もデジタル化に対応した取り組みが模索されていた（A, C）。また、家庭の食生活が子どもの学校給食の様に表れるといった指摘や、子どもの残食はメニューの好みや行事、クラスの雰囲気左右されること、普段から少食の子どももいるといった意見もあった（C）。

#### (2) ②-1家庭へ発信する食育媒体

家庭へ発信する食育媒体（所属校）は、印刷物として配布する給食だよりや献立表が主なものであった。ホームページで給食の写真やレシピの紹介を行っている学校もあった（A, E, F）。おやつについての動画を作成し、PTA会員限定での配信や、コロナ禍で中止となった給食試食会の代わりとして、給食を説明した動画を作成し会員限定配信をするなど、PTAと連携し、配信動画を媒体とした食育を試みている学校もあった（F）。担当校もほぼ同じ媒体であった。

#### (3) ②-2家庭へ発信する内容

家庭へ発信する内容（所属校）は、4月は「給食について」、6月は「食育月間について」など、食育月別目標に関連する内容（B, C, D, E, F, H, I）や望ましい生活習慣・食習慣に関すること（A, D）、特別給食や日頃の給食の様子、給食調理の画像といった内容など（D, E, F, H, I）であった。担当校もほぼ同じ内容であった。

#### (4) ②-3家庭への食育支援と媒体

家庭への食育支援（所属校）は、コロナ禍以前であれば、学校給食試食会等が実施され、保護者と学校の懇談の場となっていたが、開催が難しくなり、ホームページや給食だより等での情報発信をしているところがあった（A, B）。中には試食会の代わりに保護者が中心となり、人気メニューやおすすめ給食レシピを掲載した便りを配布したところもあった（E）。本調査を実施した2022年度に県内一斉に実施された児童生徒対象の食生活実態調査の結果を配信する等の取り組みもあった（E, H, I）。担当校について

ては、担当校側からの依頼により実施するケースが多いが、コロナ禍の影響を受け、関わる事例が少なくなっていた。また、食育に関心の高い家庭とそうでない家庭の差が大きいように感じられる (D)、保護者によって意識はバラバラなどの意見 (F) もあった。

#### (5) ③-1 食育の計画・実施・評価と担当者

食育の計画・実施・評価と担当者（所属校）は、校務分掌で決められている食育主管部が担当し、計画している。実施に当たっては全学で取り組み、評価は担当部が行うところが多い (A, D, E, F, H, I)。計画の原案は栄養教諭が作成し、部員が検討し職員会議で提案となることもあった (G)。担当校は栄養教諭が全て把握をしているわけではないとした回答が多く (A, B, D, G)、部分的にかかわっているようであった。また、単独調理方式と共同調理方式では、食育の取り組みに違いが出る状況が見受けられた。共同調理場方式では、学校と調理場が離れており、教職員との連絡調整が難しく連携が取りにくいなどの問題点があった (E, H)。

#### (6) ③-2 栄養教諭の食育への意向の採用状況

栄養教諭の食育への意向の採用状況（所属校）は、聞き取りしたすべての栄養教諭の食育への意向が採用されていた。特に食育に関しては栄養教諭に任せられているとした回答が多かった。担当校でも栄養教諭の食育への意向が採用されていた (A, B, D, E, F)。

#### (7) ③-3 管理職の食育への意向の採用状況

管理職の食育への意向の採用状況（所属校及び担当校）は、食育に関しては栄養教諭や食育担当部に任されているため、管理職からの要望等がない場合が多いようだが、年度当初に発表される教育目標や教育方針の重点項目に食育に関するものが盛り込まれており、その方針に従っている。基本的には所属校・担当校とも管理職の願いや要望に従っている。

#### (8) ④-1 食育スキル育成の仕組み

栄養教諭の食育スキル育成の仕組みは、石川県内の栄養教諭・学校栄養職員の研究会を通した自主研修会が年2回行われている。また、県教育委員会が実施する技術講習会や研修会がある。また、市町のブロックごとに教員組織の研修会も行われている。さらに、石川県栄養士会が実施主体の研修会等もある。このように様々な研修会が定期的に行われてきたが、近年はコロナ禍の影響で対面での研修会ではなく、ほとんどがオンライン形式での研修会となっている。

#### (9) ④-2 学校固有の食育引き継ぎの仕組み

学校固有の食育に関する引き継ぎの仕組みは、特に決まったものではなく、個々の栄養教諭の意識や状況にゆだねられている。後任に対して、データやファイルを残す (A, C)、引き継ぎ書による引き継ぎ (E, G, H, I) などがあった。一人職<sup>4)</sup>のため、個々の方針や裁量が重視され、引き継ぎをしないケースもあるとのことであった (B, D)。

#### (10) ④-3 栄養教諭の知識・経験の継承

データを残すことで継承としているケースがあるが (A, C, E, H, I)、栄養教諭の知識・経験の継承についても特に決まった仕組みはなく、栄養教諭の個々の裁量に任されている。一人職が多いため、知識経験の細部まで継承することは難しいが、データや口頭で伝えることから知識・経験が伝承される部分もある。異動することも前任者の取り組みを知ることにつながり、知識・経験の積み上げとなっていた。

#### (11) ④-4 食育の情報共有の場

栄養教諭同士の食育内容の情報共有の場については、各種研修会が食育の情報共有の場になると共に、細かな情報は、月1～2回行われる献立作成会議<sup>5)</sup> (C, D, F) で得られるものが多いとの意見があった。一人職で職務全般は栄養教諭本人の裁量にゆだねられる中で、細かな部分を確認したり、経験者の意見を聞いたり、工夫や対応等の情報交換が必要になることも多く、このような場は必要とのことであった。

#### (12) ④-5 小学校・中学校での食育の違い

小学校・中学校での食育の違いについては、小学校は発達段階に応じた食育 (A, B)、中学校は部活動や受験に対応した食育を行っている (A, E, G) とのことであった。小学校は学級担任との連携で授業に食育を取り入れ、中学校では教科担任と連携するケースが多いが、小学校に比べ中学校は年度当初からしっかり計画に入れておかないと実施が難しいようである (F, H)。



表1 調査結果

番号	①	①
項目	学校での食育内容	
種別	所属校	所属以外の担当校
A	教科等特別活動道徳等の食育授業（家庭科総合的な学習道徳） 学級活動の月毎の食育目標に基づいた指導（学級担任栄養教諭） 給食時間の指導 教職員対象の給食食育の校内研修の実施	所属校と同じ内容
B	市で統一した食育の月目標を設定し、それに沿った指導 指導資料や指導案を、栄養教諭から毎月学級担任に渡し、担任が指導 課題として、学校では系統立てた計画のある指導が必要	所属校と同じ内容
C	地域の特色や地場産を生かした給食お話し給食旅する給食行事食旬の給食給食委員会 食べることの関心を高める資料配布と掲示 給食時間の放送栄養黒板 6年英語活動で子どもの考えたカレーメニューの提供 低学年は「感謝」高学年は理詰めで指導 課題 家庭の食生活が学校給食の様子に現れる 少食もいる 難しい 子どもが楽しことが大事 残食は献立や行事、雰囲気による コロナ禍で黙食の中、給食時間の指導の 在り方に悩む ICTを活用した活動を模索中。ICTを利用した活動が増えてきた 教科書と時間確保があると食育が進むと思うがそうならない クラス数が多い	給食 配布資料の提供 4年英語活動でビザメニューの 提供
D	給食への地場産物導入 特別給食の実施 特別給食に関わる資料の提供、PR、広報活動 毎月の食育目標の掲示、全校放送、担任への資料提供 担任による給食時間の指導 家庭向け食育だよりの発行 栄養教諭による給食時間の教室巡回 担任と栄養教諭の連携授業	所属校と同じ内容
E	給食指導…給食準備から片付けまでの一連の指導で習慣化を図る（個に応じた指導） ・食事環境：正しい手洗い、食事にふさわしい環境 ・給食当番：チェック表で体 調・身支度を把握 ・準備：ワゴン車を安全に運ぶ 衛生的な盛り付け 正しい食器のならべ方 ・会食：献立名を知る、食事のあいさつ、食器を持ち正しく箸を使う、マナーを守り 楽しく会食 ・片付け：協力して手順よく ごみの分別ができる 食に関する指導…学校給食の献立を教材として ・食品の山地や栄養的な特徴を学ぶ ・郷土食や行事食などの食文化を学ぶ ・教科書で取り上げた給食の献立や食品などを教材として活用 課題 校では黙食、残食にも限界がある 共同調理場の仕事と単独校では仕事内容が違う 共同調理場は集団、単独は個別も見れる 学校を多く担当するほど食育が難しい	所属校と同じ内容

表1の続き\_その1

番号	①	①
項目	学校での食育内容	
種別	所属校	所属以外の担当校
F	<p>毎月の給食目標に応じた食育</p> <p>・給食時間の指導 ・全校集会 ・食育だより ・お昼の校内放送 ・給食委員会</p> <p>学校給食を教材とした食育</p> <p>・献立年間計画に沿った給食の実施と指導、地域の特色ある給食、旅する給食、お話し給食、行事食</p> <p>学級活動や教科等における食育：・担任と連携して行う</p> <p>個別的な相談指導：・肥満度40%を超える児童を対象に実施</p>	<p>毎月の給食目標に応じた食育</p> <p>給食時間の指導全校集会たよりお昼の校内放送給食委員会活動</p> <p>学校給食を教材とした食育</p> <p>献立年間計画に沿った給食の実施</p> <p>地域の特色ある給食 旅する給食 お話し給食 行事食等</p>
G	<p>給食時間の教室巡回指導 給食時間の校内放送による給食についてのおしらせ</p> <p>学級活動授業への参画</p> <p>課題</p> <p>今年度は異動1年目でまだ子供たちの実態を把握できていない</p> <p>1学期は毎日の教室巡回の中で、子ども達の様子を見ながら声掛けをしている</p> <p>残食量も多いのでまずは、食への関心、残食量を減らすための方策を探っている</p>	所属校と同じ内容
H	<p>給食指導…給食準備から片付けまでの一連の指導で習慣化を図る (個に応じた指導)</p> <p>・食事環境：正しい手洗い、食事にふさわしい環境</p> <p>・給食当番：チェック表で体調・身支度を把握</p> <p>・準備：ワゴン車を安全に運ぶ、衛生的な盛り付け、正しい食器のならべ方</p> <p>・会食：献立名を知る、食事のあいさつ、食器を持ち正しく箸を使う、マナーを守り楽しく会食</p> <p>・片付け：協力して手順よく・ごみの分別ができる</p> <p>食に関する指導…学校給食の献立を教材として</p> <p>・食品の山地や栄養的な特徴を学ぶ</p> <p>・郷土食や行事食などの食文化を学ぶ</p> <p>・教科書で取り上げた給食の献立や食品などを教材として活用</p>	所属校と同じ内容
I	<p>給食指導…給食準備から片付けまでの一連の指導で習慣化を図る (個に応じた指導)</p> <p>・食事環境：正しい手洗い、食事にふさわしい環境 ・給食当番：チェック表で体調・身支度を把握</p> <p>・準備：ワゴン車を安全に運ぶ、衛生的な盛り付け、正しい食器のならべ方</p> <p>・会食：献立名を知る、食事のあいさつ、食器を持ち正しく箸を使う、マナーを守り楽しく会食</p> <p>・片付け：協力して手順よく・ごみの分別ができる</p> <p>食に関する指導…学校給食の献立を教材として</p> <p>・食品の産地や栄養的な特徴を学ぶ ・郷土食や行事食などの食文化を学ぶ</p> <p>・教科書で取り上げた給食の献立や食品などを教材として活用</p>	所属校と同じ内容

表1の続き\_その2

番号	②-1	②-1	②-2	②-2
項目	家庭へ発信する食育媒体		家庭へ発信する内容	
種別	所属校	所属以外の担当校	所属校	所属以外の担当校
A	食育だより等 ホームページの食育 (給食写真たよりレシピ掲載) 教職員対象給食食育研修の実施	食育だより等 レシピ募集等	望ましい生活習慣食習慣 SDGs等	望ましい生活習慣食習慣 SDGs等
B	給食だより 献立表	給食だより 献立表	主に月目標に沿った内容。 (前年度と内容が重ならないよう配慮)	所属校と同様のものを配布
C	給食だより 献立表	給食だより 献立表	給食目標に沿った内容 号外あり	所属校と同様のものを配布
D	食育だより 献立表	食育だより 献立表	発信時期にあわせて知らせる内容 4月:給食について 6月:食育月間について 7月:夏の食生活について 9月:朝食について 学校の給食の様子など	発信時期にあわせて知らせる内容 4月:給食について 6月:食育月間について 7月:夏の食生活について 9月:朝食について 学校の給食の様子など
E	給食だより 3群分け予定献立表 ホームページ(市のHPに、小学校 は毎日の献立、中学校はブログ食 育コーナー)	給食だより 3群分け予定 献立表	給食だより ・年間指導計画に基づいた食に関する 情報を発信 食品の3群分け予定献立表 ・1ヶ月分献立名、材料名、栄養価 (エネルギー・たんぱく質・脂質) ・特別給食、地場産物の活用 ホームページの更新 ・毎日の給食写真を用いた情報発信	給食だより ・年間指導計画に基づいた食に関する 情報を発信 食品3群分け予定献立表 ・1ヶ月分献立名、材料名、栄養価 (エネルギー・たんぱく質・脂質) ・特別給食、地場産物の活用
F	食育だより、献立表 紙媒体で配 付、学校HP掲載 コロナ休校の際、おやつについて 動画を育友会会員限定コンテンツ として学校HPに掲載 給食試食会の代わりに給食説明ス ライド動画を期間限定で会員限定 コンテンツとして学校HPに掲載	食育だより、 献立表(紙 媒体で配付)	食育だより、献立表 (月目標にそった食育についての内容、給 食レシピ、学校での食育の紹介)	食育だより、献立表 (月目標にそった食育についての内容、 給食レシピ、
G	給食だより 献立表	給食だより 献立表	給食だより 献立表	給食だより 献立表
H	給食だより 献立表	給食だより 献立表	給食だより ・毎月のテーマに基づき食に関する 情報発信 食品の6群分け献立 ・1ヶ月分献立名、材料名、栄養価(エネ ルギー・たんぱく質・脂質) ・特別給食、地場産物の活用 ホームページの更新 ・特別給食や日頃の給食の様子、 給食調理の写真等を用いて発信	給食だより ・毎月のテーマに基づき食に関する 情報発信 食品の6群分け献立 ・1ヶ月分献立名、材料名、栄養価 (エネルギー・たんぱく質・脂質) ・特別給食、地場産物の活用
I	給食だより 献立表	給食だより 献立表	給食だより ・毎月のテーマに基づき食に関する情報発 信 食品の6群分け献立 ・1ヶ月分献立名、材料名、栄養価 ・特別給食、地場産物の活用 ホームページ:特別給食や日頃の給食の様 子、給食調理の写真等を用いて発信	給食だより ・毎月のテーマに基づき食に関する情報 発信 食品の6群分け献立 ・1ヶ月分献立名、材料名、栄養価 (エネルギー・たんぱく質・脂質) ・特別給食、地場産物の活用

表1の続き\_その3

番号	②ー3	②ー3	③ー1	③ー1
項目	家庭への食育支援		食育の計画・実施・評価と担当者	
種別	所属校	所属以外の担当校	所属校	所属以外の担当校
A	食育評価 食育だより HP コロナ禍で給食試食会や食育講演を実施できないのでHP等を活用している	食育評価 食育だより	所属している生徒指導部で計画を提案し、主任会議・職員会議で提案され、実施・評価している	保健体育部食育担当教諭が中心に実施している 計画・実施については相談を受けて確認・助言している 評価は把握していない
B	給食だより、学校のHPで給食の内容を紹介課題 試食会や親子料理教室などが実施できるようになると良い		生徒指導部に所属し、教諭と相談する 月目標や指導案は従来のものを使用→実施は月初めの集会で全校児童に行う場合・栄養教諭は朝の時間に行う場合・学級担任が指導案に沿って行う場合がある→評価は学級担任が行い栄養教諭に提出。→評価表は管理職に提出	養護教諭が担当しており、月目標や指導案は使用されているが、評価については確認していない
C	給食レシピの問い合わせに対応 食物アレルギー児童の保護者と面談		校務分掌：保健体育部で計画提案、評価までには至らない 主任会で差し戻しもあり	校務分掌の食育担当者が行っている
D	今年度は学校給食試食会を予定している課題 家庭では食育に感心のある人とならない人の差が大きいこと		食育は生徒指導部が担当することになっている。栄養教諭は生徒指導部に所属し、食育担当になっているが、他に担当はいない 計画は栄養教諭が行い生徒指導部で提案し検討されたのち、職員会を経て実施される。評価は生徒指導部で行っている 課題としては、学校での食育は、栄養教諭に任せられ、計画や提案も一人でやる人が多いことがあげられる	食育担当者はいるが、どの部門にあたるか、計画・実施・評価の把握はしていない 相談に応じ、食育については常に連携をとっている
E	児童の実態についての情報提供 ・食生活実態調査結果による児童の実態を知らせる。 PTAと連携した給食だよりの作成 ・PTAより試食会の要望があったができず、PTA主導で作成した便りを配布（人気メニュー おすすめレシピなど） 課題：コロナの影響でPTA行事や試食会等、保護者と話す機会が減少している	就学時検診での食育講話 学校給食試食会	生徒指導部にて計画・実施・評価を行う 計画：食育担当（担当教諭・栄養教諭）が、児童の実態を把握（残食・生活実態調査・発育測定） 生徒指導部：学年ごとに強化と食育の関連項目見直し 実施：学級担任等 共同調理場と学校の距離を縮める取り組みとして、調理員が教室訪問し会食し子どもの様子を見学する 課題：給食センターの場合、単独校勤務に比べ教職員との連携が取りにくい 指導の成果や改善状況の判断が難しい 評価方法がわからない 食育の効果が見えにくい	食育担当教諭が計画 栄養教諭は喫食状況等の情報提供を行う 所属校に比べ担当校へのかかわりが難しい
F	課題 保護者によって意識はバラバラであること		担当部門…特活保体部（保健体育主事、養護教諭、学級担任、級外教諭、栄養教諭） 計画・実施・評価 栄養教諭…1～2月 食育全体計画の見直し、教育課程とのすり合わせ 特活保体部…2～3月に再検討 職員会…提案 次年度4月当初	担当部門は、特活保体部で（保健体育主事、養護教諭、学級担任、級外教諭で構成される）計画・実施・評価を実施する 1～2月 食育全体計画の見直し、教育課程とすり合わせる 2～3月に再検討し、職員会で提案する（4月当初）
G	給食だより 試食会	給食だより 試食会	分掌部会：特別活動健康部 栄養教諭が食育原案作成	具体的な計画部分は関わっていないので把握していない
H	食生活実態調査 課題 家庭への啓発はコロナで機会が減った 保護者とコミュニケーションをとる機会がなくなった 家庭での食育状況は把握が難しい		生徒指導部にて計画・実施・評価を行う 生徒の実態に応じて、食育担当者が計画し生徒指導部で検討その後職員会議を経て実施する。実施後の評価は生徒指導部にて行い、全職員に周知する 課題：単独校とセンターでも違いがある。単独校は直接児童・生徒をみれる。センターでは、教職員との時間調整が難しく連携が取りにくい	食育担当教諭が計画 栄養教諭は喫食状況等の情報提供を行う
I	食生活実態調査		生徒指導部にて計画・実施・評価を行う 生徒の実態に応じて、食育担当者が計画し生徒指導部で検討する その後職員会議を経て実施する。実施後の評価は生徒指導部にて行い、全職員に周知する	食育担当教諭が計画 栄養教諭は喫食状況等の情報提供を行う

表1の続き\_その4

番号	③－2	③－2	③－3	③－3
項目	栄養教諭の食育への意向の採用状況		管理職の食育への意向の採用状況	
種別	所属校	所属以外の担当校	所属校	所属以外の担当校
A	栄養教諭の意向は採用されている 所属している生徒指導部で計画を提案し協議したうえで職員会議・主任会議に提案され、実施される 7月の「夏の飲み物の選び方」について25クラス特別支援学級4クラス1校時または半校時の時間設定をし栄養教諭が各教室で指導を実施する等	栄養教諭の意向は採用されている 食育担当者を通して実施	管理職の願いを尊重して実施している 学級担任への支援・保護者への働きかけ等	管理職の願いを尊重して実施している 学級担任への支援・保護者への働きかけ等
B	人数が少ないため大きな相談事にならない。自由度が高く栄養教諭の意向は採用されやすい	栄養教諭の意向は採用されている 発達段階に応じた内容で食の指導を学級活動の時間に行う意向等を反映している	食育に関する指導を行ってほしいと言われる	県の学校給食献立コンクールへの応募
C	後片付けの仕方・盛りきって食べるを採用		任せられている 信頼されている 管理職の給食現場への声掛けが助けになる。管理職に調理現場の状況がわかるように伝える	
D	食育の担当は栄養教諭に任せられており、取組の意見や希望は取り入れられる しかし行動変容に至るようなものになっていない現状もある ・給食時間の全校放送 ・毎月の食育目標や特別給食に関する担任による指導	給食時間に食育目標に関して指導をする ランチルームの清掃について等の意向を反映している	現状の他に意見や希望を聞いている いない	現状の他に意見や希望を聞いている いない
E	児童会給食委員会の残食調査・後片付け調査 給食指導、食生活実態調査などの実施意向を反映している	給食指導、食生活実態調査の実施の意向を反映している	給食喫食状況の把握と指導 ・校長に残食を報告 ・落ち着いて食べる雰囲気を作れるかどうかは学級担任による ・新任教員はよくできている教員を見学して学ばせる ・マニュアル化できない部分がある	給食時間の使い方等
F	月目標に応じた食育の取組について、特活保体部で実施方法等について提案が協議され、採用される	月目標に応じた食育の取組について、給食指導担当教諭や給食委員会担当教諭に資料提供し食育活動に活用する意向を反映している	目標面談の際、学校長から地場産物生産者の工夫や苦勞を伝えるよう、アドバイスを受けた それを受けて夏季休業中に社会科担当教諭と松任梨生産農家へ取材に行き、食育動画づくりを行うことができた	今年度は防災給食の実施とその指導の希望を伺っている 小学校で実施している方法をアレンジしてできないか検討中
G	異動したばかりで具体的に意見や希望をつたえていないが、いろいろ提案はしている	特になし	特になし	特になし
H	食に関するアンケートや残食調査の実施の意向が反映している		教育目標・教育方針の中の重点項目の一つに「食育に関心を持ち、健康の保持増進と体力の向上の推進」が掲げられている	
I	食に関するアンケートや残食調査の実施等の意向が反映している		教育目標・教育方針の中の重点項目の一つに「食育に関心を持ち、健康の保持増進と体力の向上の推進」が掲げられている	



表1の続き\_その5

	④ー 1	④ー 2
項目	食育スキル育成の仕組み	学校固有の食育引継ぎの仕組み
種別		
A	各種研修会への参加	食育計画・実践・評価の記録をファイルして引き継いでいる
B	栄養教諭・学校栄養職員研究会が行う研修会での講演など 協議会の研修もリモートなどの案内があるものの内容がしっくりこない	前任者の意識による。前年度までの実績や資料などを残すタイプ残さないタイプがあり、残さない場合の後任は手探りの1年となり効率が悪い 一人職の栄養教諭は、その人の個性に左右される部分が大い仕事であり、全体の意識が変わるか教科書ができないとこの状態は続くのではと思う 系統立てて進めることが栄養教諭を信用してもらえ一歩になると思うが、個性のある人が多いので難しい
C	ブロックの集まりで疑問・質問が聞きやすい コロナで学校間の研究授業などの研修が少なくなった	データを残す（指導案・ワークシート・写真など） 全体計画に入れる
D	情報交換しながら自己流に行っている場合が多いと思う	異動の時に引き継ぎをするのみ 一人職のため、引継ぎしない場合もある
E	技術講習会、自主研修会等各種研修会 ・コロナで少なくなった ・B市は集まりやすい（隣同士の施設のため） ・資料の共有、小・中の連携もしやすい ・行事食等も計画的にできる	引き継ぎ書を作って渡す
F	県教育委員会主催の講習会 栄養教諭学校栄養職員研究会の自主研修 石川県栄養士会（学校健康教育部会）スキルアップ研修会	食育全体計画 献立年間計画
G	県の研修（配信されている）	引き継ぎ書を作って渡す
H	技術講習会、自主研修会等各種研修会	引き継ぎ書を作って渡す
I	技術講習会、自主研修会等各種研修会	引き継ぎ書を作って渡す

表1の続き\_その6

番号	④－3	④－4	④－5
項目	栄養教諭の知識経験の継承	食育の情報共有の場	小学校・中学校での食育の違い
種別			
A	食育計画・実践・評価の記録データの引継ぎ 食育データの提供 食育講演・授業等の参観 給食・食育OJTの実施	市内栄養教諭の共有ファイル	発達の段階に応じてそれぞれに適応した食育を実施している 中学校ではスポーツ栄養等の食育実施・受験期の食生活の提案等
B	仕組みはない	今現在のグループではない	小学校は、発達段階に沿った内容で尚且つ繰り返しの指導が必要 中学校は授業時間を食育に譲り受けることが難しいので教科の中のゲストで入るか、部活の顧問に依頼して行う 中学生は卒業するとほぼその後の指導は難しいので、より食の指導の重要性を感じる
C	データを残す（指導案・ワークシート・媒体）	献立作成会等栄養士が集まる会 雑談の中にヒントがある リモートで行うときもある	中学校では、給食担当教員が、給食当番のチェックリストや後片付けの指導をしている 授業などの食育活動は前任者が行っていると、引継ぐ形で活動しやすい
D	知識や経験が継承される仕組みは特別なものはない 異動で前任者の取組を知ることや、情報交換で得たものを自分に取り入れることを繰り返しながら知識や経験を積み重ねている	献立調整委員会などの献立作成の場が情報共有の場になると思うが、献立作成でいっぱいである	
E	情報交換の場、献立作成会研修会等で意見交換をする 前任者の食育データを使う 自分で切り開くしかない場合も多い仕事である 経験を重ねることがスキルアップになる	給食部会の研修会 月1～2回の献立会	小学校 ・学級活動や給食の時間の指導がしやすい ・学級担任制のため、家庭科、保険等では定着しにくい 中学校 ・教科担任制のため家庭課などの食育指導は定着しやすい ・部活動や受験などを絡めた指導ができる 授業時数や日課の関係で学級活動や給食時間の指導が難しい
F		市献立作成会 白学研給食部会 県栄養教諭学校栄養職員研究会研究冊子	中学校は毎年の計画に入っていない食育を新たに行うには周到な準備や提案が必要で、それでも実施できないことがあったが、小学校は当初に計画されていない食育であっても当該年度の児童の実態から必要と判断された場合は実施が容易という印象
G	思いはあるが、求められていないことは躊躇する。一人職の難しさもある	分掌部会（特別活動健康部） ごみを最小化する取り組みにたいおうしてもらう、献立会など	小学校は指導の刷り込みが入りやすく、委員会等での取り組みも積極的な態度がみられる 中学校は学業や部活動が忙しく食育指導が入りにくい点はあるが、1年生からの積み上げを大切にすれば食育指導の成果もあげられる 一番問題なのは、教職員の意識であることも感じている。食への関心や意識の高さが指導に直結していると感じる
H	データを残す 口頭で意見交換 前任者のデータ	給食部会等研究会 市教研は2～3か月に1回 衛生管理等	小学校 ・学級活動や給食の時間の指導がしやすい ・学級担任制のため、家庭科、保健等では定着しにくい 中学校 ・教科担任制のため家庭課などの食育指導は定着しやすい ・部活動や受験などを絡めた指導ができる ・授業時数や日課の関係で学級活動や給食時間の指導が難しい。担任による面もある
I	データを残す 口頭で意見交換 前任者のデータ	給食部会等研究会 市教研は2～3か月に1回 衛生管理等	中学校は1年は教室に入りやすいが、2年・3年は入るのにドキドキする 関係作りから始まる

#### 4. 考察

##### (1) ①子どもへの働きかけ

学校での食育は、栄養教諭の働きかけで、学級での食育指導が行われ、教員への食育の校内研修も実施されていた。これは、食育推進計画の方針や給食目標に沿った共通性を持った食育の取り組みであると考えられた。

学校給食で実施する給食指導は、給食の準備から後片付けまでを子どもたちが当番制で行い、手洗い・身支度・運搬・配膳など安全や衛生、環境への配慮を理解しながら習慣化を図っていたが、これらの経験は、子どもが社会性を身に付ける重要な教育であり、核家族や共働き世帯が多い現代社会では、家庭で身に付けることは困難になっていることが考えられ、改めて学校給食の必要性を確認した。

児童・生徒への個別指導や個に応じた指導は、栄養教諭が直接指導に当たる場合や、学級担任と連携し行う場合もある。児童・生徒の個性は尊重しつつも、健康を左右することや社会性を身に付けるといった面で、過度な個性を緩和する個別指導が必要になると考えられた。子どもの家庭の食生活が学校給食に表れることや、献立の好みや学級の雰囲気が残食へ影響することが示されたが、学校給食は、学級内の問題解決や環境づくりといった子ども達同士の合意形成や学級をよりよくしようとする学級活動とも連動し社会性を身に付けていく場となっていると考えられた。

栄養教諭の食に関する子どもへの働きかけの取り組みは、食育授業や学校給食で子どもに共通性を持った食育を提供し、子どもの健康や社会性に関する過度な個性をコントロールする役割があると考えられた。

##### (2) ②家庭への働きかけ

家庭へ発信する媒体は、毎月の給食だより（献立表）・食育だより、学校ホームページが多く、内容は地域で統一した月別目標に沿って発信されている。生活習慣・食習慣に関すること。特別給食や日頃の給食の様子、給食調理の画像等の内容で発信されている。家庭に向けて、学校で行われている食育や献立を伝えることで、家庭での食の話題作りや、子どもの食事の摂り方の確認になると考えられた。

コロナ禍の影響により、学校給食試食会や親子料理教室等の保護者との交流が減り、ほとんどが学校から家庭への一方向の発信となっている様子が見受けられたが、そのような中でも、子どもに人気の給食メニューを取り上げた保護者作成の食育だよりの発信をするケースもあり、学校給食の献立が学校と家庭の交流のきっかけになっていると考えられた。

また、コロナ禍で中止されていた試食会等の代替にホームページで学校給食の様子を配信するなど、家庭への食育の発信方法も新しい様式となりつつあることが確認された。

学校の食育における家庭へ向けた働きかけは、毎月の給食だよりやホームページといった媒体を使用したものや給食試食会や親子料理教室等の行事が主なものであった。これらは家庭での食の話題となり、共通性のある学校での食育を認識し、家庭での子どもの食育の確認となるものであった。つまり、学校からの家庭へ向けた食育の働きかけは家庭の食育の補完となっていると考えられた。

##### (3) ③学校での食育体制

小学校・中学校での食育の担当は校務分掌で決められ、主に保健を司る部門が担当している。栄養教諭もその部門に所属し、食育に関しては中心となって計画・実施・評価改善等を行っていた。栄養教諭の配置定数は、学校栄養職員と同じ枠で配置され、単独調理（自校）方式や共同調理（センター）方式といった学校給食施設の調理方式別に、給食の人数で配置の定数が決められていることや、必置義務でないため、全ての公立小・中学校には配置されていない。また、小・中学校で栄養教諭は一人職のケースが多く、所属校以外にも単独調理方式の巡回校や共同調理場の給食受配校など複数の担当校を受け持つことが多い。そのような状況下、栄養教諭は全体計画作成にかかわり、学級担任と連携をし、さらに所属校以外の担当校にも給食だよりや献立表の配布はもちろん、所属校と同じように食育が推進されるよう学校の要望に応じ実施されていた。栄養教諭の業務の範囲は所属校以外の担当校を含め、大変幅広いが、子ども達に充実した食育が行きわたるよう取り組まれていた。子どもの食育の更なる拡充を図るためには栄養教諭の配置を見直す必要もあると考えられた。

##### (4) ④ノウハウの継承や継続性

栄養教諭の食育スキルに関しては、栄養教諭組織の自主的な研修会、県教育委員会が実施する研修会等があるが、コロナ禍の影響でオンライン形式での研修会が主流となり、形骸化も懸念されている。また、栄養教諭は一人職であることが多く人事異動も頻繁に行われる。引継ぎにも特に決まった仕組みはなく、栄養教諭の個々の裁量に任されている。また、一人職の場合、知識経験の細部まで継承することは難しく、データや口頭で伝えるのが主になる。食育の情報共有の場について、細かな情報は、月1～2回行われる献立作成会議の場で得られるものが多いと

のことであった。ここでは献立作成以外の情報共有もでき、職務全般の細部を確認したり、経験者の意見を聞いたり、工夫や対応等の情報交換が必要になる部分も多く、このような場は必要と考えられた。

小学校・中学校での食育の違いについては、小学校と中学校では食育実施の柔軟性や教員ごとの食意識の面で違いがあり、小学校に比べ中学校の方が食育推進の優先順位が低くなる可能性がある。

学校の食育は、ノウハウや継続性についても栄養教諭個々の裁量や考え方によるところが大きく、食育の共通性に関しては、それに向けての工夫はあるものの栄養教諭個々の個性による差異が出やすいと考えられた。

## 5. おわりに

学校での食育の家庭への補完としての機能は、学校給食の準備から食事、後片付けまでの一連の活動を経験する中で、また、家庭へ向けての便りやホームページの食育配信、食育行事を通して、共通性のある食事の摂り方やマナーなどの食習慣を理解し身につけることが中心となっていた。学校給食の状況から個々の子どもの様子がわかり、家庭を巻き込んだ個別の食育の必要性が考えられるが、個別指導の充実には、栄養教諭の職務の多忙さから個々の家庭の食育に介入することは現状では難しく、家庭への食育は、給食だよりや試食会の開催等に留まっていた。食育体制については、組織的に体制が整えられているが、栄養教諭は職場では一人職となりやすく、個人の考え方や取り組み方によるところが大きく食育内容に差異が出やすい。また、栄養教諭の配置の状況や共同調理場の職務の面から、食育の拡充には、人員の充実や体制の見直しを踏まえた学校の食育推進が必要であると考えられた。

栄養教諭が行う食育の授業時間数や教科、授業形態は、栄養教諭個々の取り組み内容と関係している可能性があるが、本稿の調査項目に設定しなかった。これらの点は今後の課題とする。

## 謝辞

本研究にご協力いただいた栄養教諭の皆様に心より感謝申し上げます。

## 注釈

- 1) 栄養教諭は公立小学校・中学校の学校給食実施校の全校に配置されているわけではない。
- 2) 以下の文中のA～Iは表中の調査対象者を表す。
- 3) 「お話給食」は絵本等に出てきたメニューを再現した給食献立。「旅する給食」は、日本や世界各地の郷土料理や特産物を取り入れた給食献立。

4) 一人職とは、学校に勤務する職員の内、一人のみの職種であること。栄養教諭以外にも養護教諭や事務職員なども一人職となることが多い。

5) 献立作成会議とは地域で定めた学校グループで、同じ献立を実施するグループである。月に1～2回の会議で献立を検討し決定する。

## 引用文献

- 赤澤典子・荒屋千秋. 2004. 幼児の食生活習慣形成のための指導・教育に関する調査研究. 日本健康教育学会誌. 23 (2). 145-151.
- 赤松利恵・稲山貴代・衛藤久美・神戸美恵子・岸田恵津. 2015a. 望ましい食習慣の形成を評価する学校における食育の進め方. 日本健康教育学会誌. 23 (2). 153-161.
- 赤松利恵・稲山貴代・衛藤久美・神戸美恵子・岸田恵津. 2015b. 望ましい食習慣の形成を目指した学校における食育の評価. 日本健康教育学会誌. 23 (2). 145-151.
- 大竹美登利・佐藤麻子・池尻加奈子・藤田盛内・山田潮里・横山英吏子. 2014. 家庭科・技術科・栄養教諭との連携を図った食育の実践. 東京学芸大学紀要：総合教育科学系. 65 (2). 323-336.
- 小林陽子・岸田佳那子. 2010. 栄養教諭の職務に関する実態調査－家庭科教諭と栄養教諭の連携に関する一考察（その1）－. 群馬大学教育学部紀要 芸術・技術・体育・生活科学編. 45. 153-163.
- 本田藍・甲斐結子・中村修. 2013. 小中学校における栄養教諭、学校栄養職員を対象とした食育の実施状況に関する調査. 長崎大学総合環境研究. 15 (1). 31-40.
- 文部科学省. 栄養教諭制度について. <[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/eiyoubu/index.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/eiyoubu/index.htm)>. 2009年4月28日更新. 2022年12月10日閲覧.



# **Assessing School Food Education and its Implementation System**

## **: Perspectives from Nutrition Teachers**

Manami YASUJIMA (Department of Food and Nutrition, Kanazawa Gakuin College),  
Ryohei YAMASHITA (Department of Environmental Science, Ishikawa Prefectural University),  
Masahiro SUMIMOTO (Department of Bioproduction Science, Ishikawa Prefectural University)

### **Abstract**

This survey engaged nine public elementary and junior high school nutrition teachers in Ishikawa Prefecture. The study provided insights into the current state of school food education as perceived by these teachers, who play a pivotal role in shaping the core of school food education. The primary objective of school food education was to bridge the connection between school-based dietary instruction and family settings. This connection involved a sequence of activities encompassing meal preparation, consumption, and post-meal cleanup. Educational events were designed to foster a comprehensive understanding of eating habits, including common dietary practices and proper etiquette. To further enhance children's dietary behaviors in the future, it is imperative to advocate for promoting food education within schools, a task that entails a comprehensive assessment of staffing and system structures.

**Keywords:** food education, nutrition teachers, schools, food education system